



神青協

皇紀2681年 神青協通信／第142号 (令和3年1月1日)



金田祐季 × 小林慶直 ～会長・新会長の想ひ～

令和2年11月25日 於神社本庁

「神青協の魅力とは」

〔猪熊〕会長、新会長対談のテーマは「二人が考へる神青協の理想と現実（現状）」です。新型コロナウイルスの影響で大変な状況となつてはありますが、どのような未来があるのかといふお話をお伺ひしたいと思ひます。

〔金田〕先づ、神道青年会と他の会との大きな違ひは、会員が「自らの強い意志を持って入会してゐるのか否か」といふことがあります。最初は、後継ぎとして実家神社で奉仕することとなつた神職子弟や新入職員の方が現会員から声をかけられることで会との接点が生れます。その後、神社や先輩神職から青年会に参加するやうに指示を受け、入会させて戴くといふ流れです。他の団体は、会の目的、会員の資格、年会費など諸々を理解して自発的に入会するといふことが一般的であると思ひますが、神道青年会については、気が付いたら青年会活動をしてゐた、といふ事実があると思ひます。その事実が前提になつてゐるといふことを認識しなければなりません。たとへ、神青協が神道の興隆を声高に謳つてゐても、若手会員が「毎日のご奉仕で精一杯」といふ会の理念とのギャップ、また若手と歴々のキャリアを重ねた会員とのギャップが大きいといふのは課題の一つだと思ひます。

〔猪熊〕小林新会長の入会の経緯を教へて下さい。

〔小林〕帰つてきた神職子弟といふのが正に私でした。それこそ、「地元に戻り奉職

したばかりであるので一年間はご容赦ください」として、一年後に初めて新潟市の支部の青年会員として入会しました。更に一年経過して県神青の役員、更に一年経過して、神青協へ事業委員として出向と、次々に外に出て行きました。それも「参加すれば勉強になる」とお声がけを戴いて、分からないままでも少しづつ勉強をしながら階段を一気に駆け上り、その勉強も追いつかないままに色んな刺激的な方々に出会ひ、そして、青年会はこのやうな人たちの集まりなんだ、といふのを肌で感じました。

〔猪熊〕格好いい先輩方がいらつしやつたといふことです。

〔金田〕さうですね。入会するときに神道青年全国協議会や地区の協議会の理念に共鳴をしたから入りたいといふ話ではなく、分からないまま入つてみたら凄く先輩がいらつしやつたといふのは非常に重要です。例へば人前での講話が上手であつたり、自分にはない知識を持つてゐるやうな尊敬できる先輩方に出会へたかといふことは、その後の青年会活動のモチベーションに繋がつてゐると思ひます。

〔猪熊〕青年会の先輩であると同時に、若手にはない様々な経験を積んでゐる神職の先輩であるといふことです。

〔金田〕入会当初、経験は勿論ですがその知識の量にも愕然とさせられました。神職資格を取得して神職として御奉仕して、古事記や皇室祭祀などについてそれなりの知識を持つてゐると思つてゐましたが、更に深い知識をお持ちの方は界界に



数をられます。それが刺激的でした。
猪熊）斯界独特の言葉遣ひなどもありますね。

小林）「先づ以て皇室の弥栄」をはじめとする独特の言葉遣ひに、皇室への高い崇敬の念を感じました。その他にも抑々何を意味してゐるのか理解できない言葉も多々ありましたが、色々な方の話を聞いたりお酒を酌み交はす内に、段階的に分かってきました。共にお酒を飲むことで得られる学びがあると感じます。

金田）理想と現実といふ話から少し趣旨が逸れるかも知れませんが、全国各地で会員の減少が起こり始めてゐる状況です。我々卒業間近の世代は、どうしたら一緒に活動してもらへるのかといふ悩みを互ひに話すことがあります。しかし、それはどのような事業を計画するかといふ問題ではなく、最終的には会を背負ふ人間が後輩にとって魅力的な先輩になれてゐるのか、といふことが重要であると思ひます。そのやうな魅力的な先輩に溢れてゐるのでしたら、たとへ会員数が減少しやうとも、その組織は永久に存続していいのだと思つてゐます。

「コロナ禍での苦闘」

猪熊）ありがたうございます。話題は変はりますが、金田会長長期における現在までの自己評価、また、小林新会長への想ひや期待についてお話を聞きたいと思ひます。今期は非常に活動が難しい時期であつたとは思ひますが、願ひ致します。

金田）私は、神社界でも一目置かれてゐるであらう神青協といふ大きな組織で、副会長二期、そして会長と、六年間にも亘り執行部としてのキャリアを積んできました。非常に珍しい部類であると思ひます。全国の会員は元より、斯界の皆様はその中枢を担ふ者に対して大きな期待を寄せてゐるにも関はらず、寧ろ課題は山積し、解決すべき問題は増加する一方、そのやうな六年間であつたと自身で総括してをり、到底満足できず、非常に申し訳ないと感じてゐます。自己評価の点で言へば、自分が播いた種がいつか花開く時を迎へ、それを実感できた時に、やうと一点が与へられるのではないかと思ひます。神青協を全うした後の方向性について聞かれることがあります。正直な自己評価としては「六年間も組織の中枢にゐてこの程度なのか」と思つてゐますので、自分が斯界で何かしらの責務を負ふといふことに引け目を感じてゐます。

猪熊）神社もさうですが、会も積み重ねてブラッシュアップされていければいいと思ひます。次期への期待、またメッセージをお願ひします。

「守り抜くといふこと」

金田）とても期待してゐます。次期を引き継いでくれる人がゐるといふことは、決して当たり前ではないと思つてゐます。



それを、自ら背負ふと決意してくれた後輩が現れてくれたといふことが有難いことです。このやうな状況ですので事業について具体的な期待は何もありません。本日、臨時総会で弱く自分を見せましたが、臨時総会が終はると更に苦しくなると思ふので、とにかく会を二年間守り抜いてほしいと思ひます。必死で守り続けて、守り抜くことによって、それ自体から実は色んな効果が生まれてゐると思ひます。「守る」といふのは消極的な言葉で捉へられがちですが、凄くプラスの言葉だと思つてゐます。組織を守るといふのは七十年の伝統や若い会員たち、役員たちを守るといふことです。加へて、全国の会員、代議員を単位会長を守り続けるといふことが、実はアグレッシブに活動することに繋がっていくのだと思ひます。そのやうな期待を持ってゐます。

猪熊）ありがたうございます。その期待を受けて、小林新会長の持つ未来への展望をお聞かせ下さい。

小林）守るといふ発想がありませんでした。与へられた状況の中で自分に何が出来のだらうといふ模索だと思つてゐました。神青協七十年の歴史の中で、神道はもつと長い歴史の中で数々の困難があつてそれを乗り越えてきました。「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」とも言ひます。今までの経験は恐らく役に立たないのではないかと思います。失敗の経験は役に立つかもしれませんが。ですが歴史に学び、また新たな歴史を作つていくといふ面でも、守るものは守り、攻めるのは藻掻きながらになると思ひま

す。状況に合はせながら、色々と考へていきたいと思ひます。また、今期の実施が難しかった事業についても、出来る範囲で実施していきたいと考へてゐます。コロナがあるのが当たり前といふ前提の中で、何が出来るのかといふことを考へていきたいです。先程の金田会長の自己判断ではありませんが、金田会長は御自身の方針について理想がありながらも、委員長や副会長の意見をよく聞き、方針を精査し、神青協の単位会の声を聞き、何が求められてゐるかを更に精査し、皆のベクトルを合はせていくといふ作業をしながら、事業を作つていったのではないかと感じてゐます。「何が求められてゐるのか」と「我々が何をすべきか」といふところの丁度いい塩梅を探つてゐる会長であつたと思ひます。ただ、そのコロナといふ前提がどんなに不確かなものになつてゐる状況で大変ご苦労された



思ひます。

金田）今、「守り抜いて」といふのは、私が会長になって一年半余りが過ぎたからこそ言へることです。二年前に私が置かれた状況考へてみると、今小林会長の立場として、そんなことは考へられないと思ひます。まづ、活動方針を作る。どのやうな人事、組織図にするかといふことで頭がいっぱいになります。ですから、組織を守り抜くといふことは、今考へなくともいいことかもしれません。私は守り抜いてほしいと言ひましたが、それは苦しい場面が現れたときに、頭の片隅に置いておいて戴きたいといふことです。今、小林次期会長がおつしやられたやうに、一步一步、そして一つ一つに全力で向き合ひ続けた先に、組織が守られると思つてゐます。

「一燈照隅 万燈照国」

瀬尾）ありがたうございます。話の途中でも頂戴してをりますが、最後に金田会長より次期への激励と小林次期会長より意気込みをお願いします。

金田）大丈夫だよ。頑張つて。

瀬尾）小林次期会長、意気込みをお願いします。

小林）臨時総会の挨拶でも申しましたが、最澄の言葉で「一燈照隅 万燈照国」といふ言葉があります。地道に活動し、その光の輪が十、百、千、万と増えていって、それが更に活動することによって、新たな人が「その活動を私もしよう」となり、やがては国を明るくするといふことで

す。地道に一つ一つ活動を積み重ねていくことが、世の中大切なのであらうと思ひます。神社神道を興隆することが本会の目的ですが、まづは出来ることから一つ一つ続けていくことが重要であると思ひます。このコロナ禍といふ状況で、神社と氏子の接点が少なくなつてきてゐますので、一つ一つできることを紡いでいくことが、やがては大きな成果になると思つて頑張つていきますのでご協力をお願い致します。

金田）一つ、具体的に期待することを言ひ忘れてゐました。会を割らないでほしいといふところです。神青協のみならず色々な会の長がある中で、その会が割れるといふことは、長としての責務を果たせなかったといふことだと思つてゐます。絶対にこの会を割ることなく、守り繋いでほしい。所謂、小林期の大同団結を期待してゐます。

猪熊・瀬尾）ありがたうございました。



◆目次

会長・新会長対談	二〇五
目次・神宮の諸行事	六
新春挨拶	七
第三回インスタグラム神社フォトコンテスト	八
「ふるさと神社めぐり」	八
各地区報告	十五

常任委員会	十七
夏期勉強会、北方領土の碑現状視察	十八
役員勉強会	十九
臨時総会	二十
東日本大震災発災十年物故者慰霊祭	二十一
協賛広告／編集後記	二十二
財団広告	二十四



～祭の力で日本の復興を～

この度、神道青年全国協議会では新たなキャッチコピーを掲げました。
神青協HPの会員ページより各種ロゴデータをダウンロードいただけます。
各単位会での事業や広報等、幅広くご利用ください。



神青協HP会員用ID: shinsei
パスワード: hinomaru

◆神宮の諸行事

一月 一日	歳旦祭
一月 三日	元始祭
一月 七日	昭和天皇祭遙拝
一月 八日	大麻暦奉製始祭
一月 十一日	一月十一日御饗
一月 三十一日	大祓
二月 十一日	建国記念祭
二月 十七日	祈年祭（二十三日）
二月 二十三日	天長祭
三月 五日	神宮大麻暦頒布終了祭
三月 十一日	田上大水神社本殿御還座
	※豊受大神宮摂社
	田上大水御前神社本殿御還座
	※豊受大神宮摂社
三月 二十日	春季皇霊祭遙拝・御園祭
四月 三日	神武天皇祭遙拝
四月 三十日	大祓
五月 十四日	風日祈祭・神御衣祭
五月 三十一日	大祓
六月 一日	御酒殿祭
六月 十五日	月次祭（二十五日）
六月 三十日	大祓

第三回インスタグラム

神社フォトコンテスト「ふるさと神社めぐり」

神社への興味や参拝の促進、神社に関心が薄い層への教化を目的とした本事業は第三回を迎えた。継続開催することで認知度が向上し、利用者が魅力的な写真を投稿することで、国内だけでなく海外へ向けた教化にも繋がり、より多くの波及効果が期待できる。

各社・各単位会HPでのリンクをはじめ、神社界の新聞等でも紹介された他、参加しやすい環境づくりと広報・募集活動・作品紹介等の拡散努力により、投稿数は一ヶ月間で過去最高の一万七千五百件を超えた。投稿写真紹介を毎日複数回行ふことで、幅広いジャンルの投稿が多く閲覧に繋がり、フォロワー数は現在三万人を超えている。

第二回のコンテストでは、告知から開催までの時期を神社に足を運ぶ可能性の高いお正月に合はせたことで、気軽に参加しやすく初詣の様子など人物写真も多く見られたが、所謂インスタ映えで有名な神社での似たような投稿が目立った為、今回は今まで注目されなかった過疎化地域を中心としたお社や、見た人が故郷の魅力の再発見に繋がるようなコンテストを目指した。

風景を写した写真はクオリティーが高いものが多く、フォロワーによる「いいね」が圧倒的に多い。募集期間外も投稿の多いユーザーはコンテストを盛り上げるために

貢献してくれた。

開催直後、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言により、中止を求める声が寄せられる等のトラブルもあったが、コメントと共に応募方法について対策を発表し、その後のクレームはゼロとなった。

外出自粛を呼びかけつつも過去の写真による応募も可能としたことで、四季折々の様々の写真が集まり、これを機に参加を試みる新規の投稿者が増えたのだ。

結果として今まで注目されなかった過疎化地域を中心としたお社や、見た人が故郷の魅力の再発見に繋がるようなコンテストとなり、投稿者それぞれの故郷や神社への特別な想ひを感じることが出来た。

外出自粛で何も楽しみがない中、多くのユーザーが美しい故郷の写真を通じて神社を巡り、お花見をし、旅をし、心の癒しとなったのではないだろうか。投稿者や閲覧者にとって地元を紹介されることへの喜びや、事態が終息したら行ってみたいとの声が多く見られ、中止せず開催して良かったと感じてゐる。引き続き今回の応募作品や神社に関する様々な写真の紹介等活動を継続し、フォロワーを含め、より神社が身近に感じられるような教化に繋げられるやう、また「ふるさと神社めぐり」出来るやうな世の中になったとき改めて開催したい。

(事業委員長 小佐野正崇)

最優秀賞

入賞作品一覧



◎作品者：@snowwhite0827 撮影場所：高知県長岡郡御鎮座 若宮八幡神社

お祭りの原点、日本の原風景が詰まった素晴らしい写真です。
壮大な自然の中で田作りに励む人々と、それをそっと見守ってくださる神様との繋がり。
いつまでも忘れてはならない、日本の始まりがここにあります。

優秀賞



◎作品者：@imani_ghibli_e_ma

撮影場所：広島県山県郡御鎮座 龜山戸谷八幡神社

田んぼの中に真つすぐ伸びる参道。この風景は地域の氏神様への崇敬、そして氏神様が地域を見守ってきた長い時間と関係性を感じさせます。この結び付きが変はらぬことを願はずにはゐられない、そんな心を揺さぶる一枚です。

優秀賞



◎作品者：@dayanishikawa 撮影場所：静岡県周智郡御鎮座 小國神社

神さびた社殿にエメラルドグリーンの池と真つ赤な神橋。そしてそれを包み込む森厳なる杜。森羅万象に宿る神々の息吹と美しさ、信仰の歴史が感じられる素晴らしい一枚です。

優秀賞



◎作品者：@masahiko_kanki

撮影場所：兵庫県 金刀比羅宮

春からの新生活に心が踊りますね！満開の桜の前での元気なジャンプ姿に、見てゐるこちらまで嬉しくなっています。たくさん遊んで、たくさん学んで下さいね。

入選



◎作品者：@yu_ichik

撮影場所：福井県坂井市御鎮座 大湊神社

色鮮やかな数多くの鯉のぼりと、昔ながらの服装で連れ立って歩く若い女性達の姿が際立つ一枚です。



◎作品者：@tomolltomo

撮影場所：鹿児島県霧島市御鎮座 飯富神社

春の太陽の光と菜の花越しに見える鳥居が、ふるさとをイメージする素敵一枚です。



◎作 品 者：@k_basilico

夏の風物詩の花火と鳥居がバランスよく撮れて
ゐる素敵な一枚です。



◎作 品 者：@hayanoyuka

撮影場所：福島県南会津郡御鎮座 高倉神社

緑に囲まれた道を列なっていく神輿行列の様子は
長閑であり厳粛であり、ふるさとのお祭りを感じる
ことのできる一枚です。



◎作 品 者：@go.shu.inn

撮影場所：静岡県富士宮市御鎮座 富士山本宮浅間大社奥宮

百年に一度の危機にある日本にあっても、日本一の山は
いつも変はらず見守ってくださる姿は、正に心の拠り所です。



◎作 品 者：@ta2funk

撮影場所：岐阜県関市御鎮座 根道神社

木々の間から差し込む光が幻想的で、厳かな霧
囲みのなかにも神々しさを感じる一枚です。



◎作 品 者：@enishi.buddha

撮影場所：岡山県瀬戸内市御鎮座 長島神社

陽の光と鳥居と海が一体となり素晴らしい作品です。
しかしながらこの風景は特別ではなく、古くから今まで続
く日常の景色といふところに真の魅力を感じます。



◎作 品 者：@yukihiko_sato
 撮影場所：北海道木古内町御鎮座 佐女川神社
 一月の北海道で極寒の中禪一枚で水を被るその姿は勇ましく、水しぶきが力強い一枚です。



◎作 品 者：@sachinoca15
 参道の桜並木が雪桜となり春を匂はせる素敵一枚です。



◎作 品 者：@seiryuken225922
 撮影場所：宮城県気仙沼市御鎮座 羽田神社
 日本の伝統的風景である御田植祭、早乙女と奉耕者の五穀豊穡の願ひが伝はってくる素敵な一枚です。



◎作 品 者：@traveler_sui
 撮影場所：奈良県奈良市御鎮座 春日大社
 鮮やかな色彩の御社殿を更に引き立たせる新緑に藤の花が映えます。息を飲むやうなコントラストです。

◎作 品 者：@yumiko.111
 撮影場所：秋田県五城目町御鎮座 黒土稲荷神社
 一面銀世界の中で佇む真っ赤な鳥居と大きな銀杏が大地の雄大さを感じさせてくれます。同じ視点から季節の移り変りはが見てみたくなる作品でした。



◎作品者：@ma3to4_
 撮影場所：福岡県大川市御鎮座 風浪宮
 清らかで美しい装束に包まれた女性の舞を写した一枚。神様への祈りが込められたその姿を見事に現してゐます。



◎作品者：@side_colorful
 撮影場所：三重県松阪市御鎮座 神服織機殿神社
 夏休みの頃の記憶が蘇る、どこか懐かしいお写真です。映画やアニメの一コマのやうな、いつまでも残したいと思ふ風景です。



◎作品者：@yizhao.jiateng
 撮影場所：静岡県袋衣市御鎮座 八王子神社
 これからもずっと幸せであるやうにと願ふ姿に感銘を受けました。当たり前前の日常がいかに大切であるか、教へられる一枚です。



◎作品者：@ryolca
 撮影場所：福岡県太宰府市御鎮座 太宰府天満宮
 夕日に親子連れ、どこか懐かしい日常の風景を切り取ったお写真です。

◎作品者：@tabio_meguru
 撮影場所：愛知県大山市御鎮座 針綱神社
 提灯から伝はる日本の伝統的な灯りは日本特有の文化、歴史を感じられる作品です。





◎作 品 者：@tamachan_dream
 撮影場所：北海道函館市御鎮座 北海道東照宮
 荘厳な垂れ桜と真っ赤な鳥居が印象的で、ポストカードなどにしたい構図です。夕暮れ時の雰囲気が非常に映える作品となっております。



◎作 品 者：@tomopiron105394
 撮影場所：京都府京都市御鎮座 鷺森神社
 母と娘、親子でお出掛け。紅葉も着物もどちらも負けない鮮やかさです。



◎作 品 者：@eee630606iiii
 撮影場所：愛知県瀬戸市御鎮座 深川神社
 瀬戸焼のお願い狛犬に祈りを込めて。ひとつは神社、もうひとつはお家でお祀りします。



◎作 品 者：@umerunman
 撮影場所：熊本県内
 今も昔も想いを込めて願いを捧げる後ろ姿は良いものですね。
 蒼く瑞々しい茅の輪も印象的で、次代に残していきたい風景です。

◎作 品 者：@kaazunhito
 撮影場所…大分県中津市御鎮座 毛蔵神社
 自然界が作り出したこの地で屈指の美しさを誇る岩峰と鳥居。荒々しくもあり光が差し込むとまた違った美しさを感じさせてくれる一枚です。



各地区報告

東北六県神道青年協議会

令和二年度役員会・

中央研修会実行委員会

【期日】

令和二年六月二十二日・ウェブ開催

本年は東北六県神道青年協議会にとって創立二十周年の節目の年でありました。事業としても、令和二年六月二十二日に秋田県にて「東北六県神道青年協議会祝練成会」を、令和二年十一月二十六日に山形



県にて「東北六県神道青年協議会創立二十周年記念式典」を開催予定でしたが、「新型コロナウイルス感染症」の影響を受け、祝練成会は開催県をそのままに次年度へ延期、創立二十周年事業は開催を中止とせざるを得ませんでした。令和三年三月十一日には神道青年全国協議会中央研修会を当地区が主管として、福島県神道青年会が担当県として開催させていただきました。三月十一日は東日本大震災発災の日であり、発災翌年の平成二十四年三月より当地区は神

青協と共に物故者へ慰霊の祈りを捧げて参りました。そして令和三年は発災より十年目を迎えます。この慰霊祭は東北地区として、何を差し置いても行はなければならぬ事業であり、コロナ禍といふ状況の中で一体どのやうにすればもつとも良いのか、暗中模索といふ状態が続いてをりましたが、担当県である福島神青を中心に知恵を出し合ひ東北一丸となることにより、震災十年目の節目の年に我々青年神職が何をすべきなのか、全国の皆様と共に何ができるのか、方向が見えて参りました。中止となった創立二十周年事業に関しまして、これまで作成してきた会員名簿や事業年鑑といった資料の取り纏めは継続して行ひ、節目の年として集約した記録を次年度へ継承していく所存です。

本年はコロナ禍といふ未曾有の災害により、経済面でも世界的な危機であると言へます。しかしこれは、歴史上何度も繰り返して起きてきた変換点であり、人類に課さ

れた試練でもありません。我々青年神職は、新しい世の変化を決して悲観することなく、次代へと繋いでいくことがその役目であると考へ、時代の担ひ手として英知を結集し行動して参ります。



神道青年東海地区協議会

令和二年度特別講演会

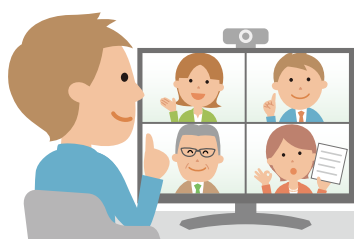
【期日】

令和二年十月十九日・ウェブ開催

東海地区では新型コロナウイルス感染症を考慮し、恒例の教化研修会並びに親睦行事を中止した。その代はり、Zoomでの役員会並びに特別講演会「戦前から続く神社神道の教会的課題」を開催した。特別講演会の講師は地区会長で國學院大學兼任講師の河村忠伸氏が務め、会員二十八名の視聴があった。講演時間については通信量も

考慮し六十分に設定した。講演の概略は左の通り。

祭祀に於いて御神慮にふかどつかは重要な問題である。戦前期の神社祭祀は、神社を「国家ノ宗祀」とし、御祭神を「帝國ノ神祇」と公認し、国家から任命された神職が祭典を執行するといふ教学によつて成り立ってゐる。朝廷は神祇を敬ひ給ひ、神祇も朝廷を幸へ給ふのであるから、天皇陛下より祭祀の「御任」（みよさし）を受けた神職として奏する祝詞を御祭神が無下になさるとは考へ難い。戦前期に於ける「待遇官吏」の問題も神職の労働条件の問題ではなく、如何なる立場で祭祀を執行するのに関する問題だからこそ神社界を挙げての運動となつたと考へるべきであらう。戦後、神道指令により神社は民間の宗教法人となつたが、神職が草莽の臣として、天皇陛下を祭祀の面で輔翼することは可能であり、精神的な「国家の宗祀」を継承し、神社本庁は発足した。しかし、「本庁幣」の意義などの教会的な課題は残されてをり、それらを解決し、神社祭祀を充実させる為に、神社界を挙げて教学を振興していく体制構築が望まれる。



神道青年近畿地区連絡協議会

第二十六回全国戦歿学徒追悼祭

【期日】 令和二年十月二十一日

【会場】 若人の廣場公園

令和二年十月二十一日午前十一時より、戦没学徒記念「若人の広場公園」（南あわじ市大見山）にて、「全国戦歿学徒を追悼する會」が主催の「第二十六回全国戦歿学徒追悼祭」が素晴らしい秋晴れのもと厳粛に斎行された。

神道青年近畿地区連絡協議会の上野会長をはじめ、神道青年近畿地区連絡協議会会員六名による祭典奉仕となり、全国の青年神職四十四名を含めて、総勢約二百名の参列となった。

斎主である上野会長の祭詞奏上に続き、「全国戦歿学徒を追悼する會」会長、兵庫県知事による追悼文、巫女による神楽奉仕、般若心経読経、賛美歌奉唱、コカリナの奉納演奏、玉串拝礼、献花と、学徒の鎮魂安霊を祈念し、祈るかたちは異なれども心ひとつに慰霊の誠を捧げた。コカリナの奉納演奏は、「全国戦歿学徒追悼祭」において初披露であり、このコカリナは、昭和十八年十月二十一日に、学徒出陣の壮行会が行はれた明治神宮外苑競技場Ⅱ現新国立競技場建替への際に、伐採された木で作られてゐる。

また、終戦七十五年を迎える本年は、同日午後一時半より、兵庫県が主催の「終戦七十五年全国戦没学徒追悼式」が執り行はれた。追悼式では、陸上自衛隊中部方面音楽隊の歌手、鶴真衣氏による国歌独唱に続き、黙祷、兵庫県知事による式辞、厚生労



働省大臣や、学徒出陣経験者、若年世代代表といった様々な立場からの追悼の辞、陸上自衛隊中部方面音楽隊による献楽、献花が行はれ、総勢約四百名の参列者が、それぞれ慰霊の誠を捧げた。

今の日本があるのは、御国の為に父母兄弟の為に若くして尊い御命を捧げられた気高き学徒諸霊のおかげであることを強く心に刻み、英霊顕彰と追悼の意義を後の世までもしっかりと語り伝えていくことが、中今を生きる我々青年神職の責務である。

千葉県神道青年会

創立七十周年

【期日】 令和二年二月二十一日

【会場】 京成ホテルミラマール

【記念講演】

『千葉ジェッツの奇跡』

経営不振のプロバスケットチームは

こうして変革を遂げた

【講師】 島田 慎一 先生

株式会社ジェッツふなばし代表取締役会長



大阪府神道青年会

創立七十周年記念式典

【期日】 令和二年二月二十八日

【会場】 ホテル阪急インターナショナル

【主題】

「結（ゆい）」

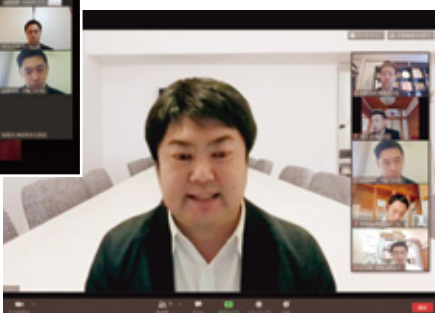
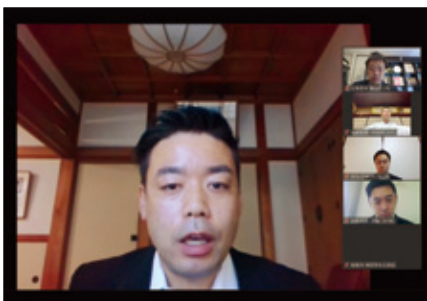
「結」とは、結ぶ以外にも互ひを助け合ひ共に事を行ふといふ意味があります。これを七十周年のテーマとし、会員同士が助け合ひ、共に家族や仲間、文化や歴史、神と仏など、様々な結びつきを深める事業に取り組んであります。



常任委員会

八月二十七日（木）正午より、ウェブで常任委員会を開催し、新型コロナウイルス感染拡大で延期されてゐた第七十二回定例総会の議事承認を頂いた。

週れば、一月十六日に日本で最初の新型コロナウイルス感染者が確認され、三月には全国小中高が臨時休校となり、四月に緊急事態宣言が全国に発出された。神青協は、



新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策本部を設置し、「全国会員を動員対象とするもの」「神青協会員以外を動員対象とするもの」「役員全てを動員対象とするもの」「その他、感染拡大予防を妨げるもの」を凍結対象事業とし、

第一期該当事業

- ・ 定例総会・巫女のための神宮研修会
- ・ 北方領土の碑現状視察並びに清掃奉仕
- ・ 四〇七月役員会

第二期該当事業

- ・ 夏期中央研修会・モンゴル国慰霊祭
- ・ 八月役員会

第三期該当事業

- ・ 第二期内で延期を検討する事業
- ・ 竹島の碑祭典・臨時総会・顧問会
- ・ 十〇一月役員会

第四期該当事業

- ・ 第一期第二期内で延期を検討する事業
- ・ 令和二年度中央研修会
- ・ 二〇四月役員会

・ 第一期第三期内で延期を検討する事業と定める対応方針を三月三十一日付で発効した。それに伴ひ、四月二十三日の定例総会の中止を決めた。また、七月十五日に九月末までの第二期事業凍結を実施した。そこで、代替案として計画してゐた八月の静岡県での夏期研修会と定例総会も、災害対策本部で中止が決まった。ここから、常任委員会の協議が始まることになった。

この時点で、第一期、第二期の事業凍結により、定例総会をはじめ、中央研修会（定例表彰式）・北方領土の碑現状視察並びに清掃奉仕・夏期研修会・巫女のための神宮研修会・モンゴル国慰霊祭など、動員を要

する事業の中止が決まっていた。当会としては、臨時総会まで延期し、定例総会と臨時総会を十一月に合はせて開催する案、書面決議案、ウェブで開催案の三択があり、総務局では七月から協議を始めた。そこで案として上がったものが、神道青年全国協議会会則第十五条（常任委員会）のウェブ開催案であった。

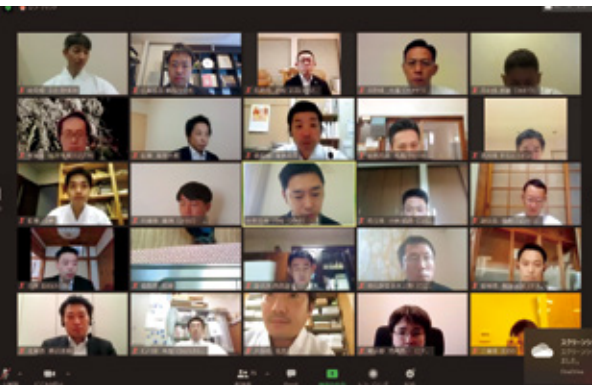
八月二十七日正午から開催された常任委員会は、会則に依り、各単体会長代理議員と代理人の四十五名と神青協役員の参加であった。動員を要する事業が軒並み中止となり、全国の単体会の方々の顔も声も今年度ほとんど見聞きしてゐなかったせゐか、パソコンの画面に皆の顔が映った時は、ようやく神青協の事業に単体会の皆様が参加をして頂けた嬉しさがこみ上げてきた。滋賀県矢頭委員、北海道勝沼委員が正副委員長を務め、第七十二回定例総会の議事に関

はる。令和元年度会務報告・令和元年度一般会計歳入歳出決算書承認に関する件・令和元年度基本財産運用資金特別会計収支計算書承認に関する件・令和元年度祈願碑特別会計収支計算書承認に関する件・令和元年度英霊顕彰事業特別会計収支計算書承認に関する件・令和元年度神宮啓発事業特別会計収支計算書承認に関する件・令和元年度災害対策特別会計収支計算書承認に関する件・創立七十周年記念事業特別会計収支計算書承認に関する件・御代替関係事業特別会計収支計算書承認に関する件・令和元年度会務会計監査報告・令和二年度活動方針事業計画案に関する件・令和二年度一般会計歳入歳出予算案に関する件の承認を頂き、十一月二十五日のハイブリッド方式で

開催された臨時総会にて、会則第十五条に則り全代議員にその旨を報告した。

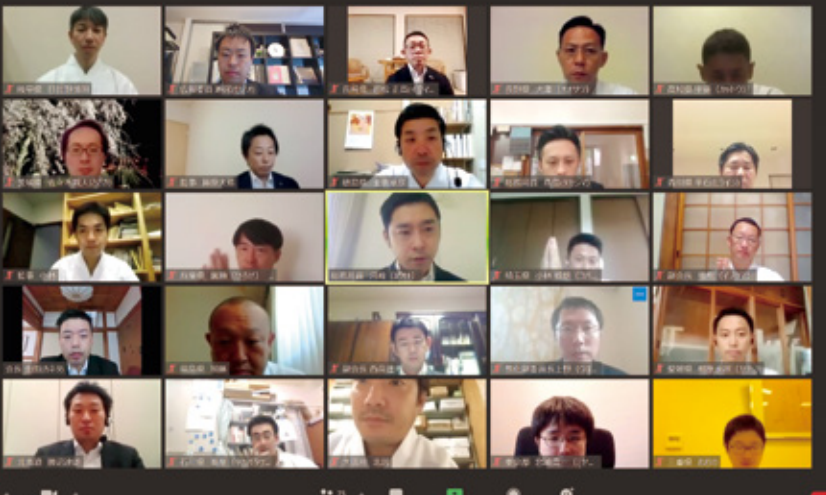
また、「こんな時だからこそ神青協と単体会の繋がりをもっと密にしたい、単体会の声が届きたい」といふ金田会長以下、役員への思いがあり、せっかくウェブで繋がっているのだから、「こんな時だからこそ密に語ろう」と題し、「しゃべり場」も開催し、金田会長の進行の元で、各単体会との意見交換会も実施した。

難しい世情の中で、我々ができることを積極的に模索し、行動に移せることは、神道青年会の強みであることを実感した。また、山積されたコロナ禍での課題解決に向けて、非常に有意義な時間であった。参加頂きました委員の皆様には改めて感謝したい。



夏期勉強会

例年八月に集会形式の夏期セミナーを開催してきたが、本年は新型コロナウイルス感染症への対応として、令和二年八月二十七日、ウェブ会議サービスZoom上にて「夏期勉強会」として開催した。「新たな日常」による社会変化とその中で神社に求められる役割について、全国神青協会員が知見を共有すべく、本勉強会は「新



たな日常」における神社の在り方」と題し鼎談形式で行った。

パネラーとして、株式会社 Campus for Being for Planet Earth 代表理事の石川善樹（いしかは よしき）先生、理論物理学者であり公益財団法人 Wellbeing for Planet Earth 理事の北川拓也（きたがは たくや）先生をお招きし、神社神道の立場から当会教化委員会委員長の河村忠伸が加はり、コーディネーターを当会副会長の西高辻信宏が務めた。

wellbeing とは、世界的に注目されてある概念である。科学や医療の進歩により、単純な寿命の延長から健康寿命、更に主観的に「豊かに生きてゐるのか」といふ well-being の視点が重んじられるようになってきた。

人間の「幸福」の形、ワークライフバランスは、新型コロナウイルス感染症による「新たな日常」および情報化社会の発展進化によって変化していかざるを得ない。そして「幸福」の形が変はつていけば、人々の「幸福」を祈る神社・神職も適応していかなばならない。本勉強会では最新の専門知識を両先生より学びながら、青年神職として問題意識の共有を図ることが出来た。詳細についてはインターネット上の会員専用ページに当日の記録動画を掲載してゐるのでは是非ご覧きたい。

インターネットを通じての勉強会は当会として初の試みであったが、例年の夏期セミナー参加者数を上回る百五十八名の会員に参加戴くことが出来た。

（教化委員 吉川泰正）

北方領土の碑現状視察

令和二年十月十三日、金田会長以下渉外委員会にて北海道根室市の納沙布岬に鎮座する納沙布金刀比羅神社境内にある「北方領土の碑」に於いて、現状視察並びに清掃奉仕が行はれた。

本来であれば六月に役員全員で執り行ふ予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により集会での開催が困難を極め、比較的落ち着いた時期を見計らって、人数を絞り、現状視察並びに清掃奉仕を執り行ふ事となった。

根室市に到着すると、まづは根室市内の金刀比羅神社にて参拝を行った。こちらの神社には北方領土の神社の御神体十一社分が預けられ、そして、現在でもそれぞれの神社の例祭が執り行はれ、元島民の方も参列をされてゐるとのお話を伺った。

現地に到着し境内はじめ、北方領土の碑の清掃活動を行った。清掃後には納沙布岬よりわづかではあるが、霧の合間から北方領土を目視する事が出来た。

戦後七十五年が過ぎ、さらには新型コロナウイルス感染症の影響により、北方領土問題は増々風化されてしまひさうな懸念がある。我々青年神職は四島の早期返還を祈ると共に、返還に向けた声を上げた活動を国民に広く周知していかなければならないと改めて強く感じる機会となった。

（渉外委員 北方宏和）



役員勉強会

加速度的変化に富む社会に身を置く現代日本人にとって、必要となる知識の獲得を目的に、前年度より引き続き、各分野の専門家、有識者を招聘し、「役員勉強会」が継続実施されることとなった。また、コロナ禍の影響により、役員の参会が叶はぬ中で、新たな試みとしてオンライン会議システムを利用したウェブ開催にてこれを行った。

七月に開催した第一回役員勉強会では、臨済宗妙心寺退蔵院副住職の松山大耕（まつやま だいかう）先生をお招きして、演題「神道と仏教の進むべき未来〜今求められているもの〜」の下、新型コロナウイルスの脅威に世界が晒されてある今、宗教者に「求められているものは何か」を軸にお話を頂いた。地震・台風・ウイルスの蔓延等大規模な自然災害が頻発する時代、人々の「死」に対する意識は高まってある。未来への不安や死への恐怖が増大する時にこそ、目標を持ち、「今」を生きていることが大



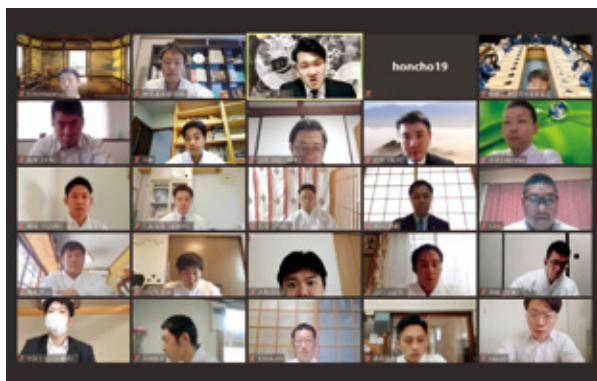
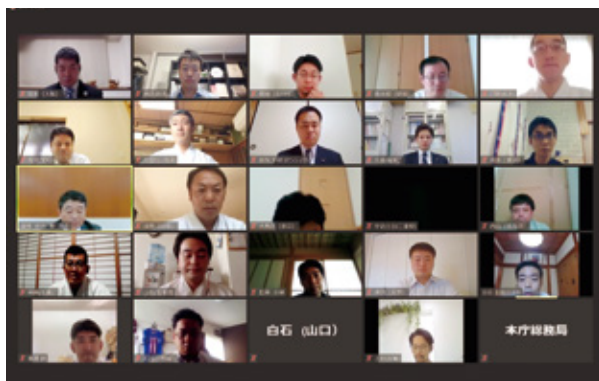
切であり、「安心」に繋がる生きがいを提供することが、今できることであり、我々に求められていることなのではないか、と語られた。世界を股にかけ広く活躍されている松山先生の経験より滲み出る言葉から、社会や人々が斯界に求めているものの「核」自体には、今も昔も変化はなく、他宗教においても同様に重要視されている要素であることを認識するに至った。

続く八月開催の第二回役員勉強会は、公益社団法人隊友会常務執行役の岩谷要（い はや かなめ）先生をお招きした。隊友会は、自衛隊退職者及び予備自衛官等を正会員として、「国民と自衛隊のかけ橋」を目的に活動されている。岩谷先生も令和元年に退職されるまで要職を歴任された。その我が国の国防の最前線に立たれてゐた先生より、「日本を取り巻く安全保障環境と我が国の防衛」と題し御講演頂いた。現在の日本は隣接する諸外国の脅威に常に晒され、そのレベルは日々上昇してある。それぞれの国が自国の利益と思惑を実現するべく、冷静な思考の下、狡猾で多様な方法で他国の権利を侵さうとしてあることを防衛に身を捧げてこられた岩谷先生のお話から



理解できた。情報戦、サイバー戦や非正規線等が組み合はされたハイブリッド戦略、また、有事と平時の境が曖昧なグレーゾーンの存在等、「戦争」のあり方も刻一刻と変化し続けてある。世界は我々が思ふよりもより強かであることを理解し、その事実を目を背けることなく、斯界としてのやうなことに取り組むことができるか、考へさせられる講演となった。

分野は異なれど、それぞれが専門的知見から、現代日本の「今」を考察し、何をなすべきかを示された。では、斯界にあってはどのような「行動」を取るべきなのか、今を生きる神職として深く考へさせられる有意義な勉強会となった。詳細は当会HP会員向けサイトの講義録、資料等を御覧頂きたい。



臨時総会

去る令和二年十一月二十五日、臨時総会が開催された。新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したことに鑑み、本年の臨時総会は神青協役員及び議長のみが本社本庁大講堂に参集し、副議長及び全国の代議員はウェブにおいて参加する、神青協初のハイブリット形式での総会開催となった。臨時総会では、矢頭英征議長、勝沼達朗副議長の進行により議事日程が進められた。

審議では先づ、先に開催された常任委員

会について金田会長より報告があった。常任委員会はすでに各単位会会長により承認されたものであるが、本総会において改めて内容が全会一致で承認された。

続く次期会長選出に関する件、次期監事選出に関する件は、いづれも次期人事に関する事項であるとして一括審議となった。十月二十八日に本社本庁にて開催された次期会長・監事選考委員会の委員長を務めた外山貴寛君より、次期会長に北陸地区・新潟県的小林慶直君、次期監事に九州地区・福岡県の西高辻信宏君、北海道地区・北海道の芦原大記君、四国地区・香川県の猪熊兼高君が選出されたことが報告された。各候補者が全会一致で承認された後、次期会長に選出された小林慶直君が挨拶を行い、これまでの神青活動、神青協出向経験振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症がある中で今まで以上にウェブを活用した会務運営を展開し、全国の会員と共に力を合はせて、斯界を取り巻く諸問題に対し活動を展開していきたい旨の決意が述べられた。

次に神青協創立七十周年記念事業特別会計の補正予算案に関する件が議題とされ、新型コロナウイルス感染症等による創立

七十周年記念事業の変更に伴ふ補正予算案を担当の東角井副会長が上程、全会一致で承認された。

最後に神青協会則変更案に関する件が議題とされ、これまで神青協理事ではなかった特別委員長を理事として議決権を与えるために役員定数を増加する会則変更案を担当の東角井副会長が上程、全会一致で承認された。

全ての議事が審議された後、矢頭英征議長、勝沼達朗副議長は、総会の議事進行を無事に務められたことを代議員に感謝し、また前例のない新型コロナウイルス感染症の中においての金田会長の会務運営に対する感謝と次期小林会長の会務期待の挨拶を述べ降壇し、議案審議が納められた。続く閉会式では、金田会長の挨拶の後、浅野将伯監事の先導により聖寿の万歳を奉唱し閉会した。

引き続き、事業報告会が行われた。先づ教化委員会の河村委員長より、新型コロナウイルス感染症の影響により令和二年度中央研修会が東日本大震災（発災十年）物故者慰霊祭に変更になったことが報告され、今後の国土平安祈願祭、東日本大震災復興祈願祭への協力をお願いがなされた。次に、渉外委員会の大島居良人委員長より、新型コロナウイルス感染症に関するアンケート回答への感謝が述べられた。竹島の碑での祭典を新型コロナウイルス感染症に鑑み、令和三年二月十九日に参加者を限定して催行することが報告された。終戦七十五周年を迎へ、各単位会に英霊顕彰に関する調査をお願いしたい旨が報告された。

次に、事業委員会の小佐野委員長より、

インスタグラム神社フォトコンテストとして第二回「わたしと神社」、第三回「ふさと神社めぐり」の実施が報告された。最後に、災害対策委員会の金田委員長より、「災害対策委員会設置に関する内規」一部改正の件が報告された。また、伝統文化を基盤とした、祭りの力で日本の真の復興を果たしたいとする神青協のキャッチコピー「日本祭興」について報告がされ、事業報告会は終了した。



東日本大震災 発災十年物故者慰霊祭

一、趣旨

令和三年三月十一日、未曾有の被害を及ぼした「東日本大震災」より十年を迎へる。被災地では、元の生活を取り戻すべく懸命な努力がなされ、町々の姿は少しずつ活気を取り戻してきた。しかし、亡くなられた方が一五、八九〇余名、そして未だ行方不明の方々も二、五七〇余名ををられるといふ、決して忘れない悲しみも残っている。

全国の青年神職が心をひとつにして、地震と大津波により尊い命を奪はれた多くの方々の御霊のやすらぎと、原発事故の収束と被災地の復旧復興を祈り、震災の記憶の風化を防ぐことが、震災発災十年の迎へた今、我々が青年神職として為すべきことである。

斎場となる浪江町に鎮座する初發神社は、震災以降、神青協をはじめ多くの単位会が支援活動を行った場所であり、現在も支援活動の拠点となつてゐる。平成三十一年三月十七日に社殿再建を果たし竣工祭が斎行され、復興のシンボルの一つでもある。

また、これまでの支援活動等の様子を映像や写真を用ひ振り返ると共に、被災地の現状を視察することにより次なる災害への防災意識向上を図りたい。

一、主催

神道青年全国協議会

一、共催

東北六県神道青年協議会

一、主管

福島県神道青年会

一、期日

令和三年三月十一日

一、場所

初發神社境内
(木・仏滅)

一、視察

双葉郡浪江町北幾世橋町
初發神社(浪江町)ゝ
若野神社(浪江町)ゝ
双葉町町内ゝ星酒宮神社
(いわき市久之浜)

一、参加費

なし

一、研修歴

付与せず

※新型コロナウイルス感染症の状況により計画を変更する場合がありますこと予めご理解賜りますようお願い申し上げます。

参加が叶はぬ場合には各自ご社頭において「復興祈願祭」を斎行して戴ければ幸ひに存じます。祝詞例文は別途ご案内申し上げます。



にっぽんさいこう 日本祭興

改めて日本について考えてみる「日本再考」。そして感じる「日本最高」。
これから、縮小を余儀なくされた祭りを復興し、
祭りの精神で地域を繋ぎ、祭りの祈りで復興を果たす「日本祭興」。
この日本祭興をキッカに日本を再興したい。
我々が望むのは、真の復興である。
それは、経済活動や単なる日常を取り戻すことだけではない。
コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に人々が繋がり、
神様への感謝を忘れることなく、大御心をいたいて日々の生活に励むこと、
そのような人々と地域が我が国に溢れることが、真の復興である。
伝統文化を基盤とした、祭りの力で日本の真の復興を果たしていくよう
訴えかけていこうとするものである。



神道青年全国協議会

神青協HP 

創業 明治以前

各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前 (〒516-0025)
TEL (0596) 22-2442 (代表)
FAX (0596) 28-8445
info@ise-minato.co.jp

神社・仏閣向けの御守などの
授与品や縁起物を製造・販売

新本工芸(株)

〒311-4153 茨城県水戸市河和田町3891
TEL: 029(251)0997代 FAX: 029(252)8287
E-MAIL: info@shinnihonkoge.co.jp
URL: http://www.shinnihonkoge.co.jp

HASEGAWA
creation with warmth

授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義實

〒340-0025 埼玉県草加市谷塚神町466-1
TEL: 048-921-1221 / FAX: 048-921-1515

創業 安政貳年

授与品・神具

秋江

御守袋・錦守・木札・紙札・絵馬
根付・神具・御装束・土鈴・記念品

株式会社 秋江

〒602-0056
京都市上京区堀川通り上立売下ル北舟橋町835
TEL 075(432)2255 FAX 075(441)8011
URL: http://www.akie-net.com

鳥居 ニッケル系高耐候性鋼

安全性抜群

(全国に建立実績有り)

(有) 宮田鉄工所

本社 〒932-0121 富山県小矢部市矢町六六五
電話 076-6154-1625
FAX 076-6154-1624
製造工場 〒929-0426 石川県河北郡津幡町竹橋メ八五
電話 076-8180-336
FAX 076-8180-337

神祭具 授与品 記念品奉製

株式会社 神路社

本社 〒516-8611 (私書函第二六号)
三重県伊勢市岩瀬二丁目五番二九号
電話番号 (059) 624-5858
神苑 (東日本営業所)
〒500-0023
東京都渋谷区恵比寿一丁目二六番十四号
電話番号 (03) 3180-6700
ACTビル四階
URL: http://www.kamijisya.co.jp

民俗工芸

株式会社

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町18-1
TEL 0956-34-5500 / FAX 0956-34-5511
URL: http://www.minzoku.co.jp

神社御社頭授与品、御神矢、御守
御守袋、絵馬、木札、御神符
金属・樹脂御守

《信用第一主義》

(有) 福岡奉製

〒834-0881 福岡県八女市立花町山崎一九六一
電話 0943-233-3412
FAX 0943-244-483

環境にやさしい
おもりをめざして

京都奉製株式会社

本社 京都市左京区市原町129-112
電話 (075) 741-3225
東京営業所 東京都足立区保坂6-114
電話 (03) 3884-1012
仙台営業所 宮城県名取市杜せきのした三丁目6-1
電話 (022) 7116-7880
福岡営業所 福岡市博多区板付5-1-11
電話 (092) 519-2132
フリーダイヤル 0120-116412

誠実と真気で奉仕する

御守・授与品
天然石みくじ
参拝記念品奉製
天然石厄除開運腕輪守

御一經次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代) FAX 0120-34-2996
sansho@green3.co.jp

神社本庁 御用達
各神社
〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鈴
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・塑造類

鈴木徽章工芸(株)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

京都・吉祥院

全国寺社授与品・調度品総合奉産

東和奉産株式会社

本社
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町7
Tel (075) 691-3000 Fax (075) 691-3300
Email info@towahosan.jp
HP http://www.towahosan.jp/
北関東営業所
〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町2508-16
Tel (029) 297-8077 Fax (029) 297-8076

子どもと一緒に
手づくり神棚キット



クボデラ 株式会社

〒165-0027 東京都中野区野方4-44-10-3F
TEL03-3386-1153 FAX03-3386-1165
mail: info@kubodera.jp

堅い仕事、誠実奉仕

神社本廳 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店

瀬戸装束店

(営業品目)

- 神職御装束 ●神楽装束 ●神社調度
- 祭器具のすべて ●神前結婚式場神殿設備

〒164-0001 東京都中野区中野3丁目10番5号
電話 03-3381-4927 FAX 03-3381-4927

取引銀行 三菱UFJ銀行 中野駅前支店 郵便振替口座
普通預金 No.0359145 00120-7-557201

全国各神社御用達

神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬・その他各種御札
御守・奉書紙・書道半紙・耐水奉書
他各種和紙謹製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

〒409-3601 代表取締役 今村和弘
山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11
電話 055(272)0514
FAX 055(272)8818

!なんでも いつでも どこへでも!

社寺建築設計工
国宝・重要文化財修理

株式会社 西澤工務店

株式会社 西澤古建築設計事務所

本社工場 〒522-0004
滋賀県彦根市鳥居本町 1980-2
TEL 0749-23-6185
FAX 0749-26-4767

- 神社の火災保険 無料鑑定実施中

神社賠償責任保険、神社の火災保険、お祭り傷害保険
など神社に必要な損害保険・生命保険を取扱しております。



神社の保険専門

村上代理店

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10
TEL:03-6447-5455 FAX:03-6447-5456

神社の保険 <http://www.murakami-hoken.co.jp/>

日本の文化財を
確かに継ぐ

漆塗・彩色・鋳金具・各種工事



株式会社 小西美術工務社

東京本社
東京都港区芝 4-4-5 三田 KM ビル 3F
電話 03-6785-1481 / FAX 03-3455-9250
日光支社
栃木県日光市所野 2829-1
電話 0288-54-1198 / FAX 0288-54-1196



神青協 Instagram



神青協 Facebook



神青協 HP
会員用 ID : shinsei
PASS : hinomaru

コミュニケーションを
発信し続けていきます。



人と人を結ぶために、
私たちはいつも新しい

NAP ニホン美術印刷株式会社 名古屋支店

名古屋市中区東横1丁目9-4(江口THビル) TEL (052) 962-0686
URL <http://www.nihonbijutsu.co.jp>

本社:大垣市西外側町2-15 TEL (0584) 78-2171(代)
■東京営業所 ■大阪営業所

創業百有余年

伝統の技術を

活かした授与品作り

全国の神社でご利用頂いております

御朱・木札・紙札・熊手
金襴御守袋・守護矢
交通安全守・ステッカー
帳 他各種授与品

株式会社 丸井紙店

TEL 055-272-0136 / FAX 055-272-3966

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

編集後記

令和三年辛丑年、新年あけましておめでとうございます。

昨年より世界中で猛威を振るふ新型コロナウイルスの影響により、新たな生活様式への移行を余儀なくされ、様々な活動を制限されてしまふ日々が続いてをります。

本年こそは、この未曾有の災害であるコロナ禍を克服し、神青協、各単位会の更なる飛躍を心より祈念する次第でございます。

広報委員会の活動につきましては、二年間携はらせて戴きましたが、神青協通信やフェイスブックなどのツールを通じて、本会会員を始め、一般の崇敬者の皆様に向けても、本会の熱意ある諸活動を伝えるべく、微力ながら努めてまいりました。

皆様に本会の活動、そしてそれに込めた想ひが少しでも伝はってをりましたら、非常に嬉しく思ひます。二年間、誠にありがとうございました。

(広報委員 瀬尾直史)

『神青協通信』第142号

発行 令和3年1月1日

編集 広報委員会

発行者 神道青年全国協議会

発行所 東京都渋谷区代々木1-1-2

制作印刷 ニホン美術印刷株式会社

神社を知ろう

神社検定

テーマは
「神話」

第9回

神社検定

神道文化検定 神社本庁監修

1級2級3級に加え**初級**を新設

御社頭でのポスター掲示にご協力をお願いします

お問い合わせ先：公益財団法人日本文化興隆財団 ☎03-5775-1145

オンライン
で開催！

令和3年 **6月27日(日)**

申込受付 令和2年12月1日(火)～令和3年5月31日(月)

<https://www.jinjakentei.jp/>

神社検定

検索



主催：公益財団法人日本文化興隆財団 監修：神社本庁

後援：一般財団法人神道文化会 株式会社扶桑社

画：國學院大學第3回『古事記』アートコンテスト高校生部門審査員特別賞 「古事記 検索」（阿部麗花）